

博物館だより

No.71

平成24年3月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館友の会 会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに講演会やバスハイク、史跡巡りなどさまざまな行事を行っています。意欲のある方であればごなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひご入会ください。

♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

♪年会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

♪お問い合わせ先

みやこ町歴史民俗博物館内
友の会事務局
TEL 0930・33・4666

3月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

3月3日(土) 9時30分

【古文書講座】

3月10日(土) 10時00分

【古典かな講座】

3月17日(土) 9時30分

【金曜古文書講座】

3月23日(金) 10時00分

【みやこ学講座】

3月24日(土) 10時00分

歴史学習DVD

みやこの歴史発見伝!

みやこの先人

現在のみやこ町出身で、後世に名をのこした先人を顕彰するDVD「みやこの歴史発見伝!みやこの先人」を当館にて好評販売中です。

ナビゲーター役の女性が先人ゆかりの土地や人を訪ねながら、その人生と業績を紹介する内容で、10名の先人をとりあげて、1名につき1本、計10本の映像ソフトにまとめています。先人を切り口にわが町を見ると、驚くような発見がいっぱいです。郷土を愛するには先ず郷土を知ることから。ぜひ、「みやこの先人」をお手元に!



みやこの歴史発見伝!

みやこの先人

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 岩垂 邦彦 | 6. 中村 春堂 |
| 2. 小宮 豊隆 | 7. 塚山 嘉樹 |
| 3. 堺 利彦 | 8. 吉田 学軒 |
| 4. 下枝 重村 | 9. 吉田 健作 |
| 5. 鶴田 知也 | 10. 吉原 古城 |

福岡県 みやこ町

「みやこの先人」ジャケット



■DVD収録の先人10名

- 岩垂邦彦(NEC創業者)
- 小宮豊隆(独文学者・漱石門下)
- 堺利彦(日本社会主義運動の父)
- 下枝重村(異才の書家)
- 鶴田知也(芥川賞作家)
- 中村春堂(かな書道の名手)
- 葉山嘉樹(プロレタリア作家)
- 吉田学軒(元号「昭和」創案者)
- 吉田健作(近代製菓業の父)
- 吉原古城(書家・漢学者)

■販売価格 1枚1000円

■販売場所 当館カウンター

《古文書解読コーナー》

① 奮発

② 〈ヒント〉 ほめ与える

お礼

③ 〈ヒント〉 「お知恵を○○」

難題

④ 〈ヒント〉 「無理○○」

借債

⑤ 〈ヒント〉 せきたてる

神妙

〈ヒント〉 心がけや行いが良い

◎答え

(反対向きに見てください)

- ① 美作
- ② 神妙
- ③ 難題
- ④ 権促
- ⑤ 借債

みやこの歴史発見伝 53

古文書が語る村の生活と文化 8

育徳館の松

【史料】

外式千四百拾九石 引高
四ツ高六千九拾石六斗五升六合七勺
一、松敷九千百貳拾本
但、国分村南行原上り山式二種
付仕度奉願候

一松敷九千百貳拾本

国作手永

一、二百九拾貳本
一、七百貳拾壹本
一、三百四本
一、八百三拾八本
一、貳百壹本
一、貳千貳百七本
一、五百三拾九本
一、貳百六拾八本
一、七百八拾七本
一、五百五拾四本
一、七百五本
一、七百六拾三本
一、百五拾本
一、六百九拾壹本

小倉藩
竹並村
下原村
田中村
皆見村
綾野村
国分村
上坂村
徳政村

(国作手永大庄屋 天保四年日記十二月三十日条)

上に掲げた史料は、国作手永大庄屋の御用日記に記された、天保五年(一八三四)実施予定の植林に関する史料です。解説文は次のとおり。

【解説文】

国作手永

外式千四百拾九石 引高

四ツ高六千九拾石六斗五升六合七勺

一、松敷九千百貳拾本

但、国分村南行原上り山式二種

付仕度奉願候

内

- 一、三百九拾貳本 国作村
- 一、七百貳拾壹本 福富村
- 一、三百四本 惣社村
- 一、八百三拾八本 矢留村
- 一、貳百壹本 有久村
- 一、貳千貳百七本 大橋村
- 一、五百三拾九本 竹並村
- 一、貳百六拾八本 下原村
- 一、七百八拾七本 田中村
- 一、五百五拾四本 皆見村
- 一、七百五本 綾野村
- 一、七百六拾三本 国分村
- 一、百五拾本 上坂村
- 一、六百九拾壹本 徳政村

已十二月

小倉藩では、十〜十五ヶ村程度を一つにまとめて「手永」という名称の行政区を設け、その長として「大庄屋」を置きました。江戸時代後期、小倉藩全体で二十七の手永が設けられていましたが(村数は約四百二十)、そのうち、国作手

永は、現在のみやこ町豊津地区の一部と行橋市南東部の村々で構成されてきました。

この史料は、その国作手永の村々が共同して行う「四ツ高松」の内容を藩に申請し、許可を得るために作成されたものです。

四ツ高松

四ツ高松とは、小倉藩の植林制度で一定の計算方法によって村ごとに定められた「四ツ高」という数値を基準にして、農閑期に松などを植林したものです。村人たちは、割り当てられた数の樹木を植えつけるため、労働の役割を負担しました。当初は、日常生活に使う木材燃料などを確保することが、この制度の主な目的であったと思われ、しかし、のちには、道筋の日除け並木や川土手の補強のためにも四ツ高松で植林が行われていました。植える木も、松に限らず、クヌギ・カシ・シイ・ハゼなど、有用な樹木であれば種別を問わなかったようです。

ナンギヨウバルの松

さて、上の史料で、天保五年に実施予定の四ツ高松は「国分村南行原上り山式」を植林場所としています。「上り山」とは藩が所有する山のことです。では「南行原」(ナンギヨウバル)とはどこかということ、これは、現在みやこ町役場豊津支所が所在する台地のことです。ナンギヨウバルは大半が国分村に属していましたが、江戸時代に入る前に

は既に無住の原野だったようです。ただ、単発的には、サツマイモの栽培などが試行されており、天保五年の四ツ高松も、そういった単発的な原野利用の試みとして行われたものようです。

翠松は校舎を囲み...

それでは、この松苗九二〇本の植林場所「国分村南行原上り山式」は、具体的には豊津台地のどこだったのでしょうか。

筆者は、様々な状況証拠から、現在の育徳館中学・高等学校の敷地であったと推定しています。今は殆ど失われてしまいましたが、旧制豊津中学時代から学校の象徴で、かつて小宮豊隆(明治三十五年豊津中学校卒業。独文学者)が「翠松は校舎を囲み風立てば琴を奏する」と校歌に詠った松の巨木群は、この天保五年の植林によるものだったと考えられます。

(川本英紀)



▲豊津高校(当時)を囲む松林。昭和32年撮影